

モーツアルト盤を聴く(21)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(21)—

1. 始めに

前報(20)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

Westminster WL50-21

モーツアルト セレナーデ 11 番変ホ長調

セレナーデ 12 番ハ短調

ウイーンフィルハーモニー木管グループ

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Westminster のモノラル盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、前報(20)のセレナーデ 10 番と同様、おだやかでゆったりとした表情の演奏で、モノラル盤でレンジは広くないものの、木管の膨らみのある音が聴けます。

ThorensTD124 の再生では、LINN LP-12 の再生同様の演奏が聴けますが、木管の膨らみが増しています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、モノラル盤でナロウレンジながら、木管の膨らみのある音が聴けますし、LINN LP-12

と ThorensTD124 の違いも聴き取れます。

以上